



## 心に残る感動の名場面

校長 鈴木 優介

「伸身の新月面が描く放物線は、栄光への架け橋だ！」この言葉を聞いて、ピンとこられた方もいらっしゃるでしょう。時は2004年、舞台はアテネ五輪の体操男子団体決勝。最後の種目は鉄棒。日本の富田選手が難易度の高い技を次々に成功させ、最後の着地が見事に決まったその瞬間、日本の金メダルが確定しました。冒頭の言葉は、その偉業の瞬間を伝えた名実況として、日本のスポーツ史に語り継がれることとなります。

「五輪の名場面」は、人々の記憶の中に様々な形で残り、美しく彩られていると思います。もちろん、私自身の中にも忘れられない名場面があります。1996年アトランタ五輪のサッカーで、前園選手や川口選手が率いる若き日本代表が、優勝候補筆頭だったブラジル代表を1-0で破った試合です。世界を震撼させたこの大番狂わせに、私は心がふるえたことを今でも覚えています。結果的には予選敗退となりましたが、この1戦の勝利は「マイアミの奇跡」と呼ばれるようになり、日本のサッカーファンの間では、もはや伝説になっています。

この夏は、東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。残念ながら、新型コロナウイルスのために、当初の盛り上がりや一体感は正直なところ薄れてしまった感があります。開催に関しても賛否両論あり、悲しくも国内世論の分断を招いてしまっているのが現状です。

しかし、万人にとっての正解が見つからない中での五輪開催であったとしても、私は子供たちの心の中には、「感動の名場面」の記憶が残ってほしいと願っています。もちろん、コロナ禍の負の記憶を払拭することは容易ではありません。それでも、人間の限界を超えようとする選手たちの姿に、そして繰り広げられる筋書きの無いドラマに、人は感動し、涙を流します。それは時として、人が抱えている辛い思いや負の記憶を凌駕し、今後の生き方にも大きな影響を与えてくれます。

東京大会2020は、開催形態、応援スタイルも、かつてない変更を余儀なくされる五輪になると思います。しかし、その中でもきっと、様々な場面で新たな歓喜の瞬間が訪れ、五輪の歴史にまた新しいページが加えられることは間違いありません。小学生の子供たちには、これからたくさんの五輪の名場面を見届け、大きく成長した後も、その興奮や感動を語り合ってほしいと思います。同時に、一人一人の心の中に残る「感動の名場面」を、いつまでも大切にしてほしいです。

### 今月の行事予定（7月）

1	木	安全指導・点検 レビュータイム	17	土	
2	金	環境美化活動 保護者会1年	18	日	
3	土		19	月	個人面談⑤ 給食終 大掃除 4時間授業
4	日		20	火	終業式 給食なし
5	月	委員会活動 6年リモート田無二中クラブ見学	21	水	夏季休業日開始
6	火	4時間授業	22	木	海の日
7	水	4時間授業	23	金	スポーツの日
8	木	個人面談① 4時間授業 体力カード配付	24	土	
9	金	避難訓練(不審者対応) 4時間授業	25	日	
10	土		26	月	
11	日		27	火	
12	月	社会を明るくする運動(始) 4時間授業	28	水	
13	火	個人面談② 4時間授業 体力カード回収	29	木	
14	水	4時間授業 オリンピック聖火リレーミニセレブレーション(6年代表児童)	30	金	
15	木	個人面談③ 4時間授業	31	土	
16	金	個人面談④ 社会を明るくする運動(終) 4時間授業	1	日	

